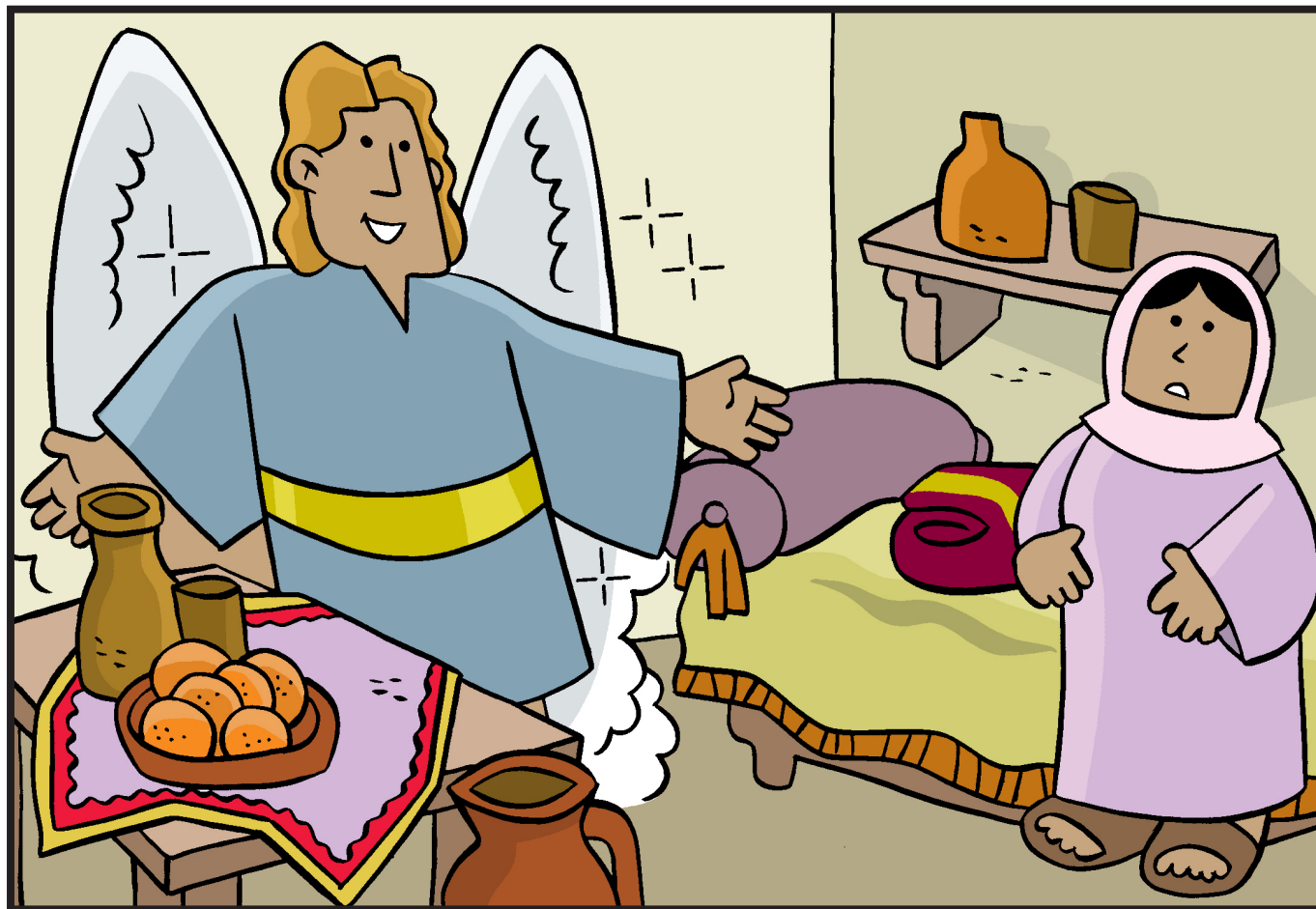


イエス様がお生まれになる

ユダヤ（イスラエル）の最後の偉大な預言者がいなくなってから、300年以上たったころのお話です。イスラエル王国が栄華を極めたころからは、さらに長い年月がたっていました。何世紀も前に預言者たちは、救い主であるイエスラエルの王様が現れ、国が復興するという預言を残していました。



歴史のこの時点では、イスラエルの土地は強大なローマ帝国に征服され、また支配されていました。ユダヤの人々は今まで以上に、預言で約束されたように、神様が救い主を送られ、自分達を自由にしてくださるのを熱望するようになっていました。

かつてはイスラエル王国の北部であった所に、ナザレという小さな村がありました。そこに、ヨセフという男の人と結婚の約束をしていた、マリヤという若い女の人が住んでいました。

ある日のこと、マリヤが家にいた時に、とても素晴らしいことが起きました。神様の天使が現れたのです。

「こわがらないでください。」と、天使は言いました。「わたしはあなたに、素晴らしい知らせを伝えに来了たのです！ あなたに、赤ちゃんが生まれます！」

「でも、わたしは結婚もしていないのに、赤ちゃんができるといいますか？」と、マリヤはたずねました。

天使の答えは、素晴らしいかったものの、ものすごくびっくりするようなことでもありました。「聖霊が神様の力によって、あなたにこの赤ちゃんを授けるのです。この赤ちゃんは、神の子と呼ばれるでしょう。」

マリヤは天使の言葉を聞いて、とても喜びました。人類の歴史上で最高かつ最も熱望されていた出来事の大切ないちやくを担うように選ばれたのですから。

それだけでは ありません。天使は、こんなことも
おしえてくれました。「あなたの 親せき、エリサベツも、
とし年を取っているにも かかわらず、赤ちゃんを 身ご
もっています。彼女には 赤ちゃんは できないだろうと
みんなから 言われていたのに、妊娠して もう 6 か月に
なります。神様が 望まれる ことには、不可能は
ないのです。」

ザカリヤと エリサベツ

マリヤは この 良い 知らせを 親せきの エリサベツに
つた 伝えたくて、エリサベツと その夫 ザカリヤが 住んで
いる 山里の 町へと 出かけて行きました。

この事が 起こる 前に、ザカリヤは エルサレムの
神殿で、祭司としての 仕事を していました。そこへ
天使が 表れ、妻の エリサベツが 男の子を 産むだろう
と 告げました。天使は ザカリヤに、その子に ヨハネ
という 名前を 付けるようにと 言いました。また、その
子は 昔の 預言者エリヤの 霊と 力を持ち、大人に
なったら、主ご自身が 来られるのに 備えて、人々を
神に 立ち帰らせるだろうと 説明しました。つまり
ヨハネは、神様の 子が 来られる 前に、人々の 心を
備えさせる 預言者になる 運命だったのです。

さて、マリヤが 親せきの 家に入ると、エリサベツは
聖霊に 満たされ、マリヤに あいさつして こう 言い
ました。「わたしの 主のお母様が わたしの ところに
来てくださるなんて、何という 光栄でしょう。あなたの

声が 聞こえたとなん、お腹の 赤ちゃんが 喜んで はねました！」

マリヤが 話す 前から、エリサベツは マリヤに 起こっていることを、もう 知っているような 口ぶりです。まだ 生まれて
いない 赤ちゃんの ヨハネですら、マリヤと 彼女のお腹の 中の 赤ちゃんが 来たことで、大喜びしていました。

エリサベツは さらに 言いました。「主が 言われたことが ことごとく 起こると 信じた 女は、何と 幸いな ことでしょう。」



喜びとおどろきの気持ちでいっぱいになった
マリヤの口からは、賛美の言葉が出てきました。

わたしの魂は主をあがめ、
わたしの霊は救い主である神様をたたえます。
身分の低いこのわたしにも目を留めて
くださったからです。

これからはどの時代の人々も、わたしを
幸せ者と言うでしょう。

力ある方が、わたしに素晴らしいことをして
くださったからです。

そのみ名は聖く、そのあわれみは、
主をおそれる者におよびます。

主は力強いわざをなし、おごり高ぶる者を
追い散らされます。

権力のある者をその座から引き降ろし、
身分の低い者を引き上げられます。

主は、わたしたちの先祖に約束されたように、
あわれみをもってイスラエルを助けて
くださいます。¹

天使がヨセフに現れる

さて、じきにマリヤの夫になろうとしていた
ヨセフは、マリヤが妊娠したと聞いて、心配になり
ます。結婚する前に妊娠するなんて、きっと人々は
マリヤのことを悪く思うでしょう。

ヨセフはマリヤを気づかい、彼女がはずかしめられることのないよう、結婚するのをやめてどこかへ送り出そう
と決心します。

ところが、ある夜のことで、ヨセフがねむっていると天使が現れ、生まれようとしている赤ちゃんについての真実を
伝え、心配しないでマリヤを妻にしろと告げます。「マリヤのお腹にいる赤ちゃんは、聖霊によるものです。
彼女は男の子を産みましょう。その名をイエスと名付けなさい。彼は、人々をその罪から救う者になるからです。」
(イエスという名前は「救い」を意味します。)

これは、全くおどろくべきお告げでした。神様の造られた最初の男女から始まって、人々は罪を犯し、そのために
苦しんできました。そして今、ヨセフは神様の天使から、マリヤは人々を罪から救ってくださる方を妊娠している
のだと聞かされたばかりです。ヨセフは夢から目が覚めると、天使に言われたようにしました。すぐにマリヤと結婚
したのです。



ベツレヘムへの旅

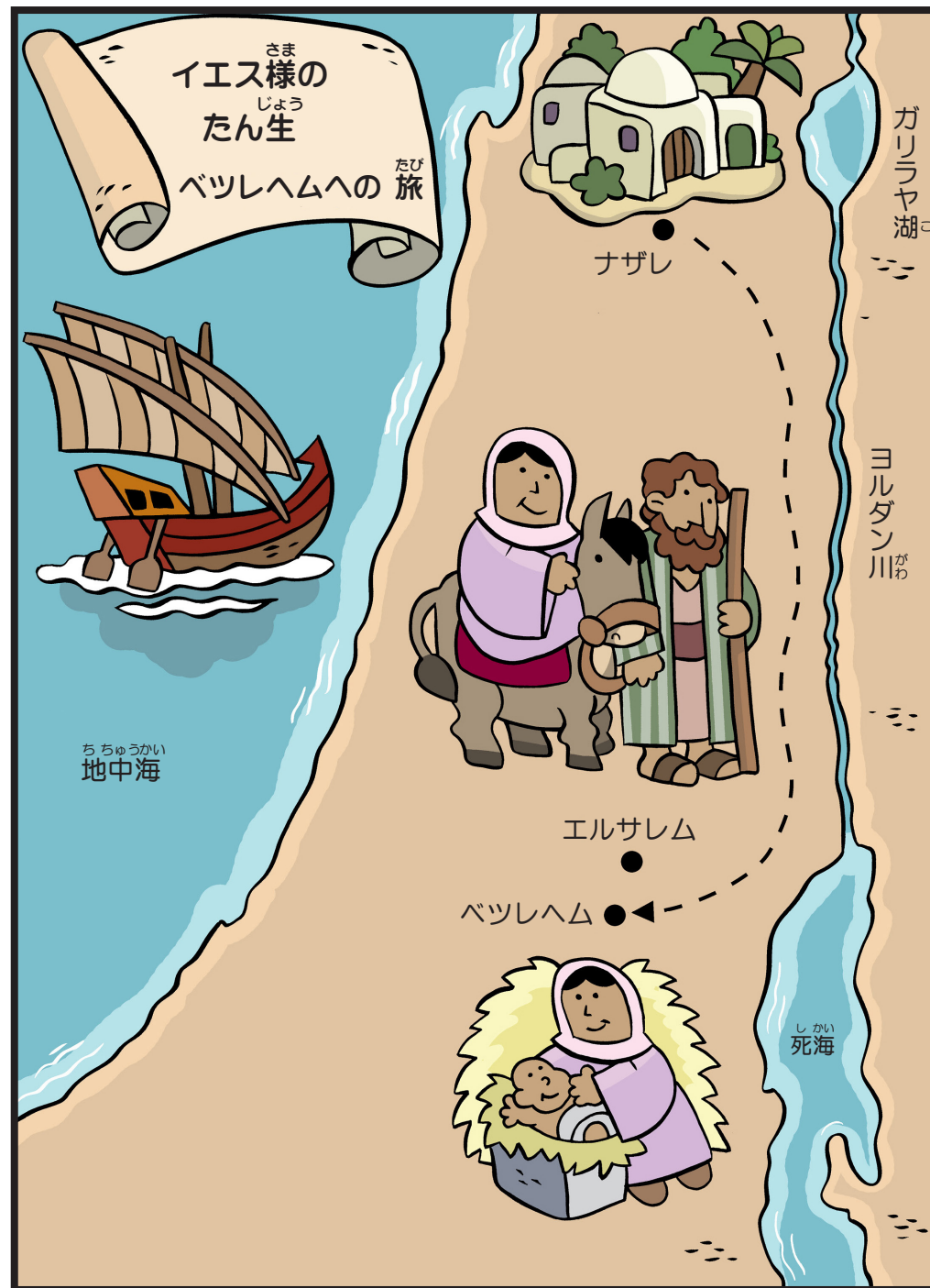
数か月がたち、もうすぐ赤ちゃんのイエス様が生まれようとしていたころ、当時イスラエルを支配していたローマ帝国から、すべての人は人口調査のために生まれ故郷へ帰らなければならぬというおふれが出ました。(人口調査とは、ローマ帝国が人々の数を数え、すべての人の名前と生まれた場所を記録するもので、その記録は、人々に税金を課すのに使われました。)

ヨセフの家族はベツレヘム村の出身でした。そこで、ヨセフとマリヤは法律に従い、ナザレを出発して、ベツレヘムへの旅に出ました。ベツレヘムは、ナザレから125キロメートルほど南にあります。当時、人々が旅する距離は、1日に大体30キロメートルから50キロメートルくらいでした。歩いての長旅は、小さなケガでも大変なことになるので、注意深くゆっくりと進むことが大切でした。また、1日の終わりに、安全のため、いっしょに旅している人達と組んで野宿するか、村にとまるための場所を見つける必要がありました。暗くなってから外を出歩いていると、強盗や野生の動物からねらわれる危険性が非常に大きくなるからです。

ヨセフとマリヤは、ベツレヘムに着くと、とまる場所を探し始めました。けれども、おそく着いたために、どこの家も、人口調査でベツレヘムにやって来た人達でいっぱいでした。マリヤは赤ちゃんを産もうとしていたので、その夜落ち着ける場所がどうしても必要でした。

幸いなことに、やっと、とまれる場所を貸してくれる人が見つかりました。けれどもそれは、思いもよらない場所でした。夜の間家畜が休む小屋です。

その夜、この世を救うために送られてきた神様のみ子イエス様が、家畜小屋で生まれました。ヨセフとマリヤは、赤ちゃんが寒くないように、一生けん命暖かくしました。布でくるんで、飼い葉おけで作ったベッドの中にねかせました。飼い葉おけは、動物達にわらや水をあげるために使う、木や石で作ったおけのことです。



ひつじか あか さま あ き 羊飼いが 赤ちゃんの イエス様に 会いに 来る

イエス様の たん生は、歴史上でも 非常に 特別な 出来事でした。イエス様が 救い主である ことが 人々に 分かるように、神様は 素晴らしい 出来事を 起こされました。

イエス様が ベツレヘムの 家畜小屋で 生まれた 夜、町外れの 野山では、羊飼いたちが 羊の 番を していました。すると とつ然、威厳に 満ちた 天使が 現れ、羊飼いたちは びっくりぎょうてんします。



そこで 天使が 言いました。「こわがることは ありません。わたしは、良い 知らせをつた 伝えに 来たのです！ 今日 ベツレヘムで、あなたがたの 救い主が お生まれに なりました！

あなたがたは、その 子が 布に くるまれて、飼料おけに ねかされているのを見るでしょう。」

すると、その 天使の 周りにおびた 数々の 天使が 現れ、神様への 賛美を 歌いました。「神様に 栄光が あるように。地上では、み心に かなう 人々に 平和が あるように。」

神様は、ご自身の み子である イエス様を送って下さるほど、この世の 人々を 愛して下さいました。それは、地上の 人々に、平和と 神様の 恵みをもたらすためです。

天使が 姿を 消すと、羊飼いたちは ベツレヘムに かけつけ、家畜小屋に とまっていた ヨセフと マリヤと 赤ちゃんの イエス様を見つけます。羊飼いたちは、イエス様の たん生という 大切な 知らせを受け、また その 意味を 教えてもらった 最初の 人々に 数えられるという、祝福を 与えられたのでした。彼らは 家畜小屋の イエス様に 会った 後、天使から 聞いたことや、自分達が 見たことを、国中を 回って 人々に 伝えたのでした。



あか 赤ちゃんの イエス様に

あた 与えられた とくべつ よ げん 特別な 預言

イエス様が生まれてから何日かたつと、ヨセフとマリヤは、赤ちゃんを神様にささげるため、ベツレヘムに近いエルサレムの神殿へ出かけて行きました。女の人が初めて産んだ男の子は、神様にささげるのがユダヤ人の習わしだったからです。

その日、神殿には非常に年老いた二人の人がいました。シメオンという男の人と、アンナという女の人で、二人とも、神様の預言者でした。昔のユダヤの預言者は、イスラエルの救い主、つまりメシヤが、ベツレヘムで生まれるという預言を書きのこに残していました。シメオンもアンナもこの預言をよく覚えていて、その預言が成就するのを、一生待ちわびていました。聖霊はシメオンに、このメシヤについての預言を目の当たりにするまでは死なないと告げていました。

さて、ヨセフとマリヤとイエス様が神殿の中庭にいと、シメオンが聖霊に導かれてやって来ました。シメオンは赤ちゃんを見て、

とても興奮しました。そして赤ちゃんをだき上げると、こう言いました。「主よ、今こそ、あなたはみ言葉通り、このしもべを安らかに去らせてくださいます。わたしの目が今あなたの救いを見たのですから。この救いはあなたが地上のすべての民に光をもたらすために備えてくださったもので、イスラエルの栄光です。」

シメオンが預言をしていると、女預言者のアンナもやって来ました。彼女も、起こっていることに気付くと、神様をほめたたえ始めました。アンナは、若いころに夫をなくしてからは、再婚せず、神殿に留まって、断食をしたり祈ったりして、神様をあがめていました。アンナは84才で、その日神殿で見たことを、それからずっと、約束された救い主を待っているすべての人に語り続けました。



星をよと読み解く

その他にも、イエス様のたん生を全くちがう方法で知った人達がいました。イスラエルより東のある国で、夜空の星を研究していた、身分の高い人達です。昔は、星の研究がとても重要視されていました。人々は星を見て、神様がどんなしるしを示そうとされているのかを知ろうとしました。イエス様が生まれた時、この賢者達は今までに見たことのない新しい星が現れるのを目撃しました。彼らの研究によると、それは、王様が生まれたことを示していました。それで彼らは共に、この新しく生まれた王様を見つける旅に出ました。星を目撃した方角に向かって、やって来たのです。

そのころ、ローマ帝国がイスラエルを治めさせていたのは、ヘロデ王でした。星に導かれてイスラエルにやって来た賢者達は、王様を公式訪問して、彼らが何をしにやって来たのかを伝え、また王様に協力を求めるのが最善だと思いました。

ヘロデ王は祭司達に、昔の預言を調べて、救い主がどこで生まれるのかを調べるようにと命じました。それで祭司達は、救い主はベツレヘムで生まれると報告しました。そこでヘロデ王は賢者達に、イエス様を見つけて報告するようにと

求めました。ヘロデ王は、協力する振りをしましたが、実際は、イエス様が大人になったら王様になって自分の地位をうばうのではないかと、おそれていました。ヘロデ王がイエス様を見つけたかった本当の理由は、殺したかったからなのです。

賢者達は星に向かって旅を続け、ついに、当時ヨセフとマリヤとイエス様が住んでいた家にたどり着きます。賢者達は、イエス様に会うと、彼を拝し、王様同士が贈り合うような、非常に高価な贈り物を捧げました。贈り物は、金と乳香と没薬でした。金は、お金として非常に価値の高いものです。乳香は、神殿の儀式で焚くのに使われる、甘い香りのするお香です。没薬は、遺体を埋葬する準備に使う香料です。



賢者達が 帰国の 準備を していると、神様は 彼らに、
ヘロデ王の 元にもどっては いけないという 警告を、
夢の 中でお告げに なります。それで 賢者達は、
イエス様を 見つけた 場所を ヘロデ王に 報告せず、
来た 時と ちがう 道を 通って 帰って 行きました。

ヘロデ王が、賢者達が もどって 来ない ことに 気付く

までに、大した 時間は かかりませんでした。ヘロデ
王は ベツレヘム中に 兵隊を つかわし、イエス様を
見つけ出して 殺すようにと 命じました。けれども
神様は、ヨセフにも、このことを 警告して おられ
ました。それで、ヘロデ王の 兵隊達が 来る ころには、
ヨセフと マリヤと イエス様は とくに その場を
脱出して、エジプトへ 向かって いました。

ヨセフと マリヤと イエス様が エジプトに 住んで
1年以上 たつと、またもや ヨセフの 夢に 天使が
現れ、ヘロデ王は もう 死んだので、故郷へ 帰っても
安全だと 告げます。そこで ヨセフは、マリヤと 少年
イエス様を 連れ、いっしょに ナザレの 町へ 帰
りました。何年も 前に ナザレを 出た 時から 始まった
旅は、ついに 終わったのです。

